

2023年度 社会福祉法人京都ワークハウス 事業報告

〈就労継続支援B型 上京ワークハウス（分室 すてっぴ糸屋）

共同生活援助・短期入所 あつと 共同生活援助・短期入所 まある

指定特定相談支援事業 上京ワークハウス〉

創立40周年を迎え、障害者権利条約を、日々の実践に活かし、

『仲間が主人公』ひとりひとりが輝く支援、地域・社会を目指そう

社会福祉法人京都ワークハウス 理 念

わたしたちは、障がいのある人が社会の中で力いっぱい働き・暮らし続けることを支える事業をおこないます。

地域の方々と手を携え、地域福祉の向上に努めながら、以下のめざすことに取り組みます。

めざすもの

- 一人ひとりの願いを大切に働く喜びをみんなで共感できる事をめざします。
- 利用者の社会参加を実現し、社会の一員として尊重されるように努めます。
- 障がいのある人や家族の願いをもとに豊かで安心して生きることができるような社会資源の充実をめざします。
- 障がい者の権利保障を希求する多くの団体と連携・協力し、よりよい社会づくりをめざします。

はじめに

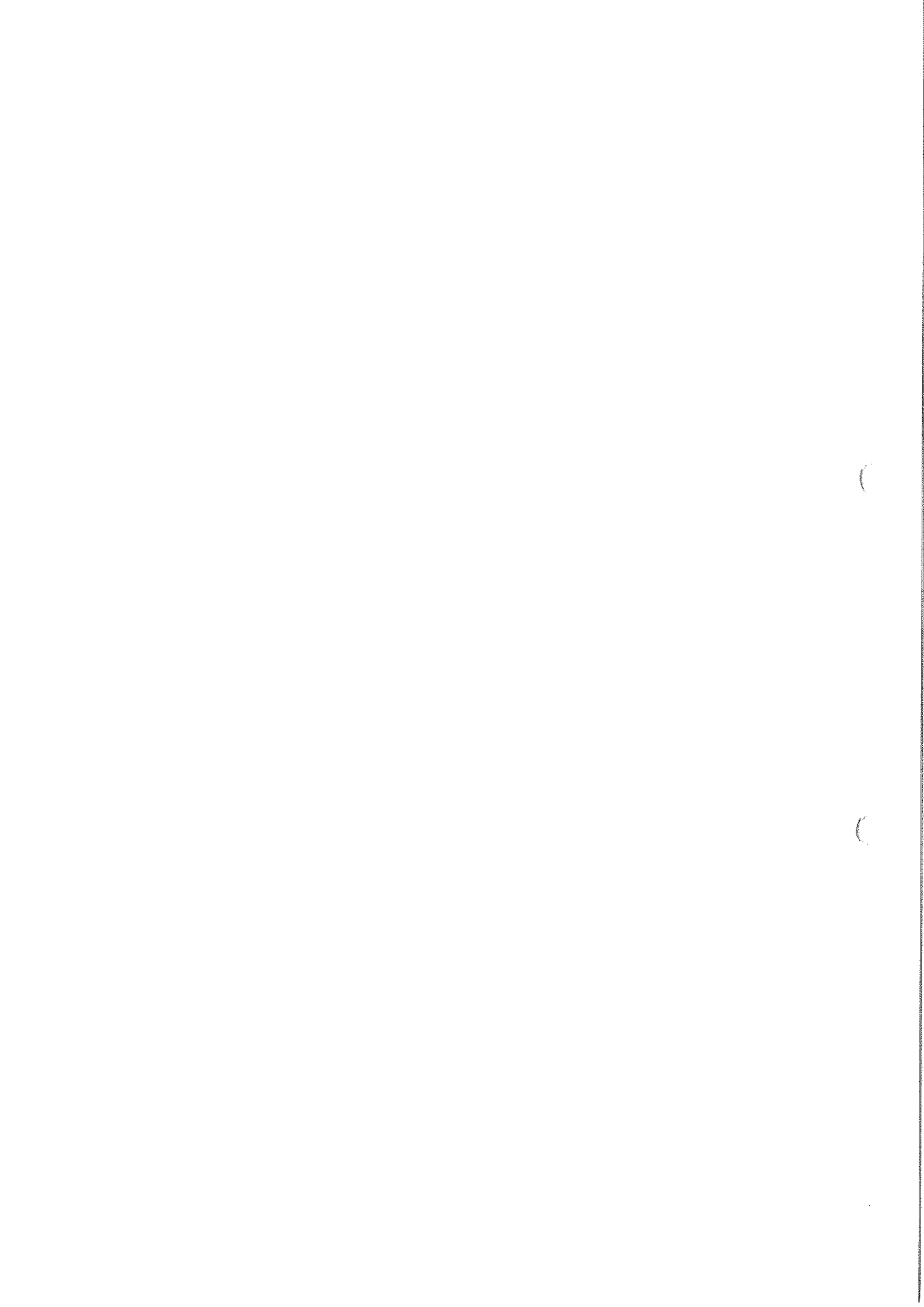
2023年度は、21、22年度に引き続き、職員一人一人が役割を担い、主体的に組織を運営すること（民主的な組織運営）を大きな柱の一つとしてスタートしました。また、経営管理・人材育成、第三者評価の指摘のひとつである業務の標準化、事業継続計画（BCP）等、重要な課題を具体的にすすめることを目指しました。

- ① ウクライナ、パレスチナ等での紛争が続く世界情勢のもと、国内では、物価高騰が続き、コロナ5類移行後、社会生産活動は一気に動き出しました。私たちの就労支援事業では下半期も蒸しまん販売、喫茶事業、下請け受注が右肩上がりに伸びて、総収入はコロナ禍後、初めて単年度で1000万を超える見込みとなりました。これは、職員の皆さんの奮闘、利用者の皆さんの頑張りに他なりません。
- ② 「暮らしの場」では、その人の願いにもとづいた新たな暮らしの選択と支援や連携の在り方、「働く場」では、強度行動障害など障害の理解と支援の在り方、環境整備、医療等の専門職との連携等を模索し、職員が日々葛藤し、悩みながら支援をすすめてきました。改めて、障害者権利条約の「総括所見」に学び、「人権モデル」の視点から、障害のある人の「意思決定の支援」「人権の保障」について、実践的に深めていくことが重要です。

呼称の取り組みについて、今回の総括会議で振り返ります。

利用者が余暇や日々の生活の中で、人権侵害、差別と捉えられる事象が起きました。市民の障害への理解や人権意識、インクルーシブな社会の実現に向けて、まだまだ道のりは遠く、私たちが地域のあらゆる人たち団体とつながり、発信していくことがますます求められます。

- ③ 上京ワークハウス創立40周年を迎え、後援会総会、9月16日、12月8日と40周年記念ミニフェスタを開催、成功させました。地域の皆さんと歩んできた40年の感謝を伝え、つながり、だ



れもが大切に、安心して、豊かに生活を営む地域・社会をともに目指します。

- ④ 第三者評価で受けた課題に着手することも提起をしましたが、業務の標準化、民主的経営、中長期計画の構想、BCP（事業継続計画）策定等、それぞれに課題を残しました。
- ⑤ 24年報酬改定の内容について、2月6日、厚労省より示されました。その内容を学び、経営分析や報酬算定等の研究、対策に早急に取り組みます。

総括会議では、利用者が「主人公」に「働き」「暮らし」続けることを支える事業活動について、各事業部担当者から報告提案します。法人理念が示す使命（障がいのある人の人権を護る実践と社会づくり）を遂行するために、ひとつひとつの実践に確信をもち、課題を明確にし、同時に法人の維持・発展の土台である経営管理や人材確保・育成をどうすすめるのか、協力協働の輪をどう広げていくのか、改めて学び、知恵を出し合い、計画を練って活路を見出していきたいと思います。

民主的な組織運営の確立

1 民主的な組織運営の確立

風通しの良い組織運営を目指します。事業部門の運営の要として月に1回、管理者主任会議を開催し、月サイクルの活動（PDCA）の機能を発揮します。法令遵守の運営・業務の標準化、サイクル化を目指します。「報連相」を重視し、朝礼・夕礼の定着と、伝達・共有の手法の工夫や見直しを行ない、支援の質の向上や業務改善につなげます。同時に、経営管理・人材育成、BCP策定等、重要課題を具体的に明確にしてすすめます。

2 役職体制と今年度の目標

就労継続支援B型 上京ワークハウス

管理者（岸本）主任（山田 早矢仕）	副主任（栗林 日野）	サービス管理責任者（清水 武石）
共同生活援助・短期入所 あっと	管理者（島田）	サービス管理責任者（早矢仕）
共同生活援助・短期入所 まある	管理者（林）	サービス管理責任者（早矢仕）

今年度トライする目標

- 法令遵守の適正な運営（自主点検表（厚労省作成）によるチェック）
- 業務の標準化 誰でもわかるよう可視化
- PDCAサイクル化 期日を明確に（月間 年間） なんでも言える、互いを尊重する職員集団

3 機構（しくみ）の全体を視野に（組織図 参照）

【事業部】 就労継続支援B型 共同生活援助（2事業+短期入所2事業）相談支援 3事業部（計6事業）とする
【経営管理部】 【自主組織】 家族会 後援会 【協力協働】 法人外の組織

4 基本会議 の定例化 と日々の「報連相」

- 法人事務局会議（第1木）、管理者主任会議（第2木）、
- 就労継続支援B型フロア会議（第3木）全体会議体会議（不定期 第4木曜） 実践上のミーティングの場（15分前後）朝礼と夕礼

給食会議（第1水）カフェ会議（職員 利用者） 年 回

●共同生活援助 グループホーム担当管理者会議 月1回 年数回 世話人会議

●相談支援会議 月1回

●家族会

●後援会

【概要】

2023年度は就労継続支援 B 型の職員の欠員補充や産休の代替等の職員体制の補強を第一義的にすすめました。すてっぷ糸屋で4月に非常勤職員、5月に正規職員を採用し、上京ワークハウスで上半期に非常勤職員6名（うち厨房2名）を採用しました。24年2月に上京ワークハウスで非常勤職員を採用しました。人材育成、OJT研修、計画的な研修・教育の課題を残し、法人としての方針を明確にし、次年度の新体制において進めていくことが求められます。共同生活援助事業の職員体制や、部会の運営、世話人の確保・支援の質の向上のための研修等、法人としての課題を残しました。

管理者主任会議では、事前の担当業務の報告・提案と、分野別課題別P D C A達成表や各担当者の年間スケジュールを作成して、到達点を共有し、次のステップや改善点を明確にすること、各フロア会議でより実践的に深めてすすめることを目指してきましたが、達成表やスケジュールは十分活用できず、各会議を目的の機構として生かすには不十分さを残しました。会議資料や情報共有の在り方を再検討する必要があります。

朝礼夕礼は情報共有、支援の改善のための即決即実行の場として名実ともに重要な位置付けとなっています。日々のヒヤリハット、ニコリホットをとりあげ、周知や改善に努めましたが、検証・対策の手順を徹底する上で課題を残しました。また、喫茶職員が孤立しない工夫や、報告項目の見直し、より有効な取り組み方を検討します。

また、組織運営の改善の取り組みとして、ボランティアの受け入れの見直し、5 S活動（整理・整頓・清潔・清掃・躰（しくみ））の提言などをしてきました。しかし、下半期も十分に取り組みませんでした。

上半期に役職者のヒアリングを実施し、年末から日中職員全員のヒアリングを実施しました。

新たに工賃問題検討部会やグループホームあっと入居者審査委員会を立ち上げ、すすめてきました。

厳しい職員体制の下で、利用者に寄り添い、6事業の運営を継続・発展させるために、職員一人ひとりが努力し、連携して実践してきたことに互いに敬意を表し、感謝し、全職員で確信にしたいと考えます。

次年度、法人の維持と、さらなる発展のために、中長期的な視点に立って、新たな組織づくり、組織体制を確立することが重要です。みなさんの力を結集して、実現していきましょう。

2023年度総括

すてっぷ糸屋一階班 方針

毎日元気に作業を行い、楽しみながら仲間づくりや日々の生活が送れるようすすめていきます。コロナウイルス感染予防とともに、みんなの日頃の体調の把握に努めながら支援を行っていきます。

下請け作業・施設外就労・カフェ・自主製品など一人ひとりが担当する仕事で力が発揮できるよう支援します。仲間同士が協力して、共同で作業に取り組めるよう関係づくりを意識しながら作業の支援を行います。

一人一人の日々の生活での困りごと、悩み事などを受け止め、心のケアに努めます。自治会活動や年間行事の取り組みを通してひとり一人の思いや考えを出し合いながら成長していく集団づくりを目指します。

作業面

- ・ 下請け作業、施設外就労の取り組みを通して一人ひとりの得意な作業を見つけながら作業のレベルアップを目指します。
- ・ 下請け業者からの資材の受け取り時に、作業ごとの完成形、納品方法と納期の確認を行い、共有していきます。
- ・ 資材・道具の整理を行い、作業に集中しやすい環境を整えます。
- ・ 自主製品づくりなどで、ひとりひとりが作業に携われるよう、工程における工夫を行います。

生活面

- ・ ストレッチ体操を午後の作業前に行います。係の人を中心に、自由に動作のアイデアを出し合い体を動かしリフレッシュに努めます。
- ・ 仲間の思いや考えに耳を傾けます。作業班の中での役割や仲間づくりを行います。
- ・ 通院やその他個別支援に対し、外部のサービスを活用しながら、事業所との情報共有をおこないながらすすめていきます。

すてっぷ 1階班

今年度5月から新しく迎えた職員とフロアの利用者との関係づくりがスムーズにすすみ、基本職員3名での支援の連携、作業の分担、引継ぎがより効率よくなりました。体制が整っていることでの仲間の安定がみられます。朝の出勤時間を遅らせていた利用者は、落ち着いてきている本人の現状を家族と確認し、朝の打ち合わせに間に合う出勤時間への変更となりました。

仲間同士の大きなトラブルはなく、個別の悩み相談は相談室を利用し、朝の打ち合わせの前や昼休みの時間に行い、利用者の様子は、朝礼と夕礼にてすてっぷ職員全体での共有に努めました。

感染予防については以前からの手洗い消毒の呼びかけ、検温の実施、体調把握に努めました。

作業面

多くの業者からの様々な作業に取り組みました。作業が多様であることで一人ひとりが得意な作業を見つけ取り組むことができました。年明けから作業が少なくなった時期がありましたが、墓地の草引き作業へ行くなど、仕事を切らさないよう努めました。また、自主製品につながる作業は、2階班職員の知恵を借り新たに取り組みました。まだまだ自主製品づくりを普段の作業時間に計画的に取り組めて

いない課題があります。2階班が窓口となるタカギ繊維の作業の納期を急ぐ際には、一階班にも共有してもらい取り組みました。作業のマニュアル作りが進まず、作業工程を動画にしてデータに残すなどひきつづき課題が残ります。

生活面

午後の打ち合わせ後の体操時間は、一時、ダンスが多めになっていたが、年度後半はラジオ体操と膝回し体操に落ち着きました。健康面では、昼食の内容がバランスを意識したものに大きく変わっている利用者の姿が見受けられました。(一人暮らしを始め、ヘルパーさんとお弁当を作り持ってくる。菓子パンからコンビニ弁当へとメニューを変える。)通院同行の個別対応は、ガイドヘルプの予定が難しい場合は、体制をみながら職員同行を行いました。

創作活動や、エアロビクスといった作業以外の活動には、みなさんがたのしく参加できていました。一時期不安定となり出勤できなかった利用者は、一日お出かけをたのしみ、普段通りの様子に戻られていました。

一人ひとりの健康意識に目を向け、より充実した生活を送るための手立てを一緒に考えていくことを大事にしていければと思います。

資材整理やフロアの配置を考え、作業時にはそれぞれが落ち着いて集中できる場、食事休憩もじっくりゆっくりととれる場となる工夫が必要です。

すてっぷ 就労 早矢仕

方針

- ・ 工賃向上を目標に、下請け、自主製品、カフェ事業のそれぞれの状況を確認し、共有していきます。
- ・ 外部実習については、コロナウイルス感染状況を考慮しながら検討をしていきます。

総括

コロナウイルスの影響が弱くなってきており、下請け作業もカフェ事業も収入が安定してきているように思います。外部実習への参加は今年度ありませんでした。各フロアの体制なども要因としてありますが、情報の収集を行い、会議の場で職員へ共有を行い相談していくながれを作っていければと思います。

すてっぷ 下請け 早矢仕

方針

- ・ 自主製品づくり等の諸活動との調整を行いながら、計画的に取り組みます。
- ・ 新たな事業者との契約を交わす際には、契約書の作成をして書面に残します。
- ・ 作業内容など、マニュアル作成をし、作業の引継ぎを円滑に進められる準備をしていきます。
- ・ ワークハウスとの作業のやりとりが必要なものに関しては、密に連絡を取り合いスムーズに作業を進めていきます。

総括

- ・ 自主製品づくりと下請け作業とのバランスとしては、まだまだ下請け作業優先となっているため、担当職員と密な相談が必要になります。
- ・ 昨年度末に契約を結んだ墓地草引き作業を、夏場と年末年始を中心に取り組みました。月一回は作業に取り組むのが望ましいが、他の作業と体制の調整が必要です。
- ・ マニュアル化が進まず、まだまだ作業を受けるごとに、職員間で、身ぶり手ぶりでの確認共有になっています。作業工程を動画としてデータに残していくことをすすめていきたいです。
- ・ ワークハウスとは、ねじ並べ、ダイレクトメールで資材のやりとりを行い、混乱なくスムーズに進めることができました。

2023年度方針

「みんなが一人ひとりを大切にして、お互いに思いやり、優しい気持ちで接することで毎日を笑顔で過ごせる仲間集団にしていこう。意欲的に仕事や他の活動に取り組み、生活を豊かにしていけるように興味・関心のある活動をしていこう。みんなで意見を出し合い、自分たちの力でより良い2階班にしていくためにはどうすればいいのかを考える意識を大切に、思いを共有していこう」

生活面

- ・「ケンカをしない」という仲間の言葉をもとにして相手を思いやる優しい言葉遣いや接し方が出来るように配慮していこう。
- ・一人ひとりが自分で考えることを大切にして、自分や相手の事、みんなの事を考えた行動が出来るように配慮しよう。
- ・本人のペースを尊重しつつ、時間や係の仕事など集団でのルールを守れることを意識してすごしていきます。
- ・1階班の仲間と日常的な交流を図り、仲間集団を広げていこう。
 - 和室を作業場所として活用するとともに、休憩時にはみんながくつろげる場として、また落ち着ける場所として使っていきます。
- ・問題意識を共有し、話し合う機会を設け、仲間同士でルールや決まり事を決めていきます。
- ・作業スペースや休憩の工夫などしながら安心して過ごせるようにしていきます。

作業面

- ・作業工程の明確化を図り、作業ノートや補助具などを作成・活用し、スキルアップできるような、仕事への意欲が高められるような工夫を行います。
- ・仕事を分担し、協力して仕上げること、当番の仕事に責任を持っておこない、仲間同士の協力でより良い2階班をみんなで作っていきます。
- ・分からないことがあれば職員に確認し、間違えないように丁寧に仕上げていきます。
- ・さわり織りやアクリルマスコットなどの製作、絵などのデザインに取り組む機会を設けていきます。また、自分の得意なこと・挑戦したいことから自主製品作りに繋げていきます。

生活面

- ・打ち合わせがなかなか始められないこともありましたが、今は以前よりもみんなが意識をして参加をすることができています。職員が声かけを続けてきたことも影響しています。
- ・和室のソファは引き続き休憩スペースとして使用をしました。ただ2階フロアの休憩スペースがそこしかないため、新たに場所を創出していく必要があります。
- ・I井さんが使用をする机の配置を一部変更しました。以前は窓の方向を向いて座る形になっていましたが今はみんなの方向を向いて仕事をする形になり状況がよくわかるようになりました。動線などに物が多く今後も引き続き環境改善に取り組む必要があります。
- ・係活動や日直について「誰かがするだろう」と曖昧な位置づけになっていました。カフェの人のことも考えて実施をする必要があります。
- ・体操は体操係が順番に当てながらその日その日で違う体操をしたり、エアロビクスで実施した物を取り入れていきました。
- ・ルール決めや気になることなどをみんなです話し合う機会がなかったためもう少ししたほうがよかったです。今後月1回固定してみることもよいかもしれません。

作業面

- ・タカギ繊維さんの仕事はコンスタントに途切れることなく来ていました。作業は2階班で協力して行い仕上がりも早かったです。工程を分けたり、材料を分ける箱を工夫するなどすることで仕上がりも早く取り組める部分も増えています。
- ・急ぎの仕事が来てもみんなで協力をして進めることができました。「やろか」と自ら名乗り出てくれる人もいました。ただ急ぎの仕事が特定の利用者に集中してしまっていました。

自主製品づくり

- ・日々の忙しさもありなかなか時間を取って実施することができませんでした。
- ・利用者各々の経験や技術を活かせるように取り組んでいく必要があります。職員がずっとついて取り組むことはなかなか難しいです。ミシン、さをり織りについても職員の余裕がなく実施が難しい。
- ・ちぎり絵をやってみてはどうか。廃材を使って作成でき職員の負担も比較的少ないです。仕事が少ないときに実施できれば良いです。

全体として

- ・利用者間で大きな事故が起こってしまいました。今後職員の配置、環境改善などできることを行っていきます。個室スペースの確保についても不要なものを捨てるなどして工夫をして作っていただければと思います。
- ・支援が必要な利用者に対して「誰かが見ている」という気持ちになってしまっていました。誰が誰につくということを明確にするようにしました。職員の動き、配置については1階、2階で協力して決めていきます。

施設外就労(主にすてっぷ)

担当(林)

方針

多様な作業の機会、外を回る体力的な作業の場、地域貢献の場として施設外就労に取り組みます。気候に応じた服装の声掛け、手洗い、消毒、うがいなどの衛生面にも気を配りながら取り組みます。

配食(火、金 1~2 件)

- ・出発前後の手洗い消毒を徹底して、食事を安全にお届けします。
- ・食事をこぼさず丁寧に運び届けます。お渡し間違いのないように心がけます。
- ・お渡し時には元気な挨拶をしてお渡しします。
- ・自動車、自転車に気をつけた道路の歩き方を意識します。

マンション清掃(毎週火曜、週 1 回、約 1 時間)

- ・居住者の方と出会う際には挨拶をして清掃員として顔を知ってもらい、作業時の会話の大きさ、音に気をつけて行います。
- ・作業に関することをマンション管理者と話し合いその都度対応していきます。
- ・掃除の終了後は手洗い消毒を徹底します。
- ・夏場はお茶休憩を取りながら掃除を行います。

駐車場・駐輪場清掃(駐車場 2 箇所・月 1 回、駐車場 2 箇所・週 1 回、駐輪場 3 箇所・月 1 回)

- ・場内を移動する車や利用者に注意を払い、カラービブスを着用し安全な作業を心がけます。
- ・夏場には草引きを中心に、水分補給、休憩を取り入れ、一度に回る箇所を調整して取り組みます。
- ・駐輪場掃除の際は、麩屋町の駐車場から歩いて回ります。
- ・掃除の終了後は手洗い消毒を徹底します。

おみがき・草抜き(不定期)

- ・仏具は高価なため慎重な作業を心掛けます。
- ・夏場のお寺の草抜きの際には適宜休憩や水分補給を行いながら作業を行います。

まとめ

- ・配食は火曜日、金曜日に週ごとにメンバーを入れ替えて実施をしました。曜日、メンバーともに定着をして参加することができました。「今日は配食や」と自分の仕事と位置づいている利用者もおられます。
- ・マンション掃除は暑い日も寒い日も週 1 回火曜日(月 4 回)に実施をすることができました。皆さん作業にも慣れて「こここうしましょうか」と積極的に作業に取り組むことができました。階段が急ということもありマンション掃除に参加出来る人が限られていることは全体として今後の課題です。ワーク職員、すてっぷ職員が交互に担当することも定着しました。体制等で担当が難しいときには入れ替わりをして臨機応変に対応することができました。
- ・駐車場・駐輪場掃除には基本 1 階・2 階班で分かれて実施をしました。キャラバンを使用できる際などは 1 階・2 階合同で実施をしました。北野天満宮近くの駐車場は落ち葉も多く大変でした。
- ・おみがきはお寺さんからお声がけいただいたときに参加をしました。丁寧に作業をすることができました。光専寺さんの草ひきはお盆前、年末に集中して取り組みました。「行ける時に行く」というスタイルであったため月ごとの計画を事前に立てておいたほうがよかったかもしれないです。
- ・地域包括支援センターよりダイレクトメールの作業の紹介があり見積書を提出しました。

来年度に向けて

- ・作業効率と単価なども本来は突き詰めて考えていくべきだと思うのですがそこまで考えることができていません。
- ・外作業が好きな利用者も多いため例えば「外作業班」という班を立ち上げてみるのもよいかもしれないと考えることもありますが具体化にはいたっていません。利用者の仕事のやりがいと工賃アップを考えていければと思います。

2023年度方針

- ・縫製は、マスク、給食袋、さをり織、ふきん、その他縫製品作りを中心に取り組みながらビーズ製品や新製品作りもしていきます。
- ・さをり織は木曜日の午後に取り組みます。材料の調達を始め、製作・発案など、ご家族の皆様にご協力を引き続きよろしく願いいたします。
- ・昨年度より少しずつ取り組んできた草木染め（エコバック）を本格的に販売していけるように試行錯誤しながら製品化できるように仲間・職員と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。また、藍を育てて藍染の商品開発にも取り組んでいきたいと思ひます。
- ・すてっぷでは、水曜日の午後自主製品作りの時間を設け、希望者で取り組みます。仲間の得意な事を活かし、思いを大切に、意欲的に取り組めるように一緒に考えていきます。
- ・作業所前やカフェでの販売にも力を入れて取り組めるよう製品数を増やす、新商品の開発、展示方法の工夫などを行いながら販路の拡大にも取り組んでいきたいと思ひます。
- ・今年度は、まんまん堂のギャラリーでの展示ができるように計画的に進めていきたいと思ひます。
- ・廃油石鹼は今年度は販売・製造をストップします。次年度に製造・販売ができるよう計画的に進めていきます。

(振り返り)

- ・廃油石鹼とさをり織は、実施体制や製造化につなげることが難しく、現状休止中。
- ・新たな自主製品として、コーヒーかすを使った、脱臭剤に着手した。
- ・草木染めは、下半期は1度実施した。模様や絞り加減の工夫を利用者と一緒に考えていった。毎回、出店販売に自主製品を持っていった。実際に草木染の商品を手にとってもらえたが、サイズや色合い等についてお客さんより質問があり、今度は要望等に沿いながら実施していけたら。
- ・今年度は、初めて藍を育てるところから始めたが、土の状態などから育ちにムラがあったり、種の収穫もあまりできなかった。
- ・販路拡大に向けて、現在ほっとはあとに商品登録申請中。
- ・下請け作業の忙しさから水曜日の午後の自主製品の時間を確保することが難しかった。下請け作業のご朱印帳の布切りの端を活用して、ちぎり絵ができないか検討中。
- ・中庭をもっと活用して、色々と植物を育てたかったが、土の状態が悪く、利用者に手伝ってもらう場面があまりなかった。
- ・仲間の絵のトートバックや染めのバック等が少し売れたが、どういった人が購入してくれたのかを今後把握していく必要がある(関係者内で購入されているケースが多い)。
- ・大判布巾は、毎年たくさんの注文が入るが、在庫が減っており、材料を探す必要がある。また、染めバック等の価格を今後、作成する際に下げて様子も見ていく。

2024年度方針

- ・縫製は、マスク、給食袋、さをり織、ふきん、その他縫製品作りを中心に取り組みながらビーズ製品や新製品作りもしていきます。
- ・廃油石鹸とさをり織は休止中だが、再開に向けて検討していきます。
- ・草木染め（エコバック）を本格的に販売していけるように試行錯誤しながら利用者・職員で一緒になって取り組んでいきたいと思ひます。また、藍を育てて藍染の商品開発にも取り組んでいきたいと思ひます。
- ・すてっぷでは、水曜日の午後に自主製品作りの時間を設け、希望者で取り組みます。仲間の得意な事を活かし、思ひを大切に、意欲的に取り組めるように一緒に考えていきます。
- ・作業所前やカフェでの販売にも力を入れて取り組めるよう製品数を増やす、新商品の開発、展示方法の工夫などを行いながら販路の拡大にも取り組んでいきたいと思ひます。
- ・今年度は、まんまん堂のギャラリーでの展示ができるように計画的に進めていきたいと思ひます。

2023年度下半期総括

すてっぷ自治会

担当（武石 裕子）

（方針） 今年度も、仲間同士の話し合いを通して、みんなの作業所生活やそれぞれの家庭での生活の未来に希望を持てるような機会になるように、試行錯誤を重ねながら取り組んでいきたいと思ひます。それぞれみんなの夢が描けるように、話し合いの結果、実行すること、振り返りながら、もっとこうしたほうがいいのではないかと向上心を持つこと、自分でやってみようと思ひたくなること等、目標はとても大きいのですが、身近な事からみんな考えてやっていこうと思ひます。楽しいイベントの数々と、昨年度話し合った「食事と健康について」や、「高齢の親御さんとの生活やその後の見通し」についての事は引き続き機会をもつてみんなで話し合ったり助言をもらう機会を作ったりして行きたいと思ひます。将来への不安に寄り添いながら、一人一人が、こんなことがしてみたい、こういう風になりたいと希望をもつて生活していくために大切な機会になることを願ひます。

10月は、「一日お出かけ」について、内容や行程、グループで別れて行く事など説明して確認した。また、ハロウィンのイベントがしたいという話になり、仕事が忙しく時間が取れないことを説明し、その上でできることとして仮装して仕事をする日を設定して楽しんだ。11月は、「一日お出かけ」を実施し、3グループに分かれて3日行った。行先は、滋賀県立近江富士花緑公園で、車で行き、バーベキューと散策をして楽しんだ。また、忘年会についてと、クリスマス会をしたいという希望が出て話し合った。忘年会はボウリングに行きたいという意見が多くあり、MKボウル上賀茂でのボウリングと、予算の都合で昼食はすてっぷに戻ってお弁当を食べる事を話し合つて決めた。その中でサマーパーティーの時にできなかった、けん玉ショーと、忘年会の時にしたいと希望していた仲間のオリジナルのビンゴゲームをお楽しみ会として取り入れた。クリスマス会については、エアロビクス教室の時にコスプレをすることにした。1月は、新年会として、清明神社への初詣と、かるたやトランプ遊びをした。自治会の時間には、みんなで話し合いたい事として、バス停でお年寄りに杖で叩かれたことや、バスの中でらまれて困つた等の話があつた。2月は、バレンタインデーの事について話し合いたいと提案があり、毎年の事だが、お小遣いの範囲の金額で買う事、お返しはしないといけないことではないので催促しないこと等確認した。しかし今年もチョコのやり取りは同じように行われていた。また、ボーナスが出ることを発表するとみんなの笑顔がわつと開いた感じで喜びに盛り上がり、3月の自治会で希望金額と「今年一年で頑張つたと思うこと」の発表をするので考えておいてくださいと伝えている。

みんなで気になることを話し合うときのルールとして、「個人攻撃はしないこと」、「名前を出さないこと」を毎回確認して、誰が悪いとかいうことではなくて、みんなですてっぷのいいかを考えていこうというスタンスを保つように配慮して、みんなが発言しやすい雰囲気、話し合いの場として大切な時間となっている。ただ、みんなの前ではまだ、自分の気持ちを言い出せない仲間もいるので、その都度、みんながどう思っているのかな？という問いかけをして、みんなが楽しいすてっぷにしていこうという気持ちを引き出していきたいと思ひます。将来の生活への希望や不安については、ヘルパーさんとの生活や高齢の親との生活で大変だつたことを話す仲間もあつたが、全体の話題としては提案が見られず、今後増えてくるだろうと予測する。



(方針)

<p>歯科検診</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科検診を実施します。(歯科が見つかり次第)
<p>健康診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に健康診断(仲間・職員)を実施します。 ・仲間の服薬リストを作成します。 ・世話人の健康診断時期や対応など考えていきます。 ・健康診断の結果に対して、厨房職員と食や健康について相談していきます。
<p>インフルエンザワクチン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザワクチンを希望者の方へ接種できるように、担当者と相談します。
<p>新型コロナウイルスワクチン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスワクチンを希望者の方へ接種できるように、担当者と相談します。

(振り返り)

歯科検診

- ・実施場所が1か所で、ワーク15名とすてっぷ15名が受検した。

	虫歯や歯石などある	汚れ/少し汚れ有り
ワークハウス	11名	8名
すてっぷ糸屋	10名	11名

健康診断

- ・仲間と職員分は担当職員が行い、世話人分は事務で振り分けた。
- ・ワークは1日、すてっぷは半日(午前)を2日に分けて実施した。
- ・服薬リストの作成と診断結果をまとめていった。

新型コロナウイルスワクチン

- ・実施場所が2か所で、希望者が接種することができた。
- ・接種希望者リストが送っているつもりが、送れていなかった。その都度、メールが送れていたか、確認が必要になる。
- ・仁和診療所が来られる際は、外出しない。通常、来られるのが遅い為にキャラバンで外出していた。しかし、早めに来られた為、急いで帰ってきてもらった。
- ・仁和診療所でワクチン数を確保することが難しいとのことで、希望者はかかりつけ医や数名が上京診療所で接種をおこなった。

インフルエンザワクチン

- ・実施場所が2か所で、希望者が接種することができた。

課題

- ・世話人の出欠は塚本を窓口にした。夜遅くに連絡があることや、まある担当職員に連絡が入ることがあった。次回、連絡する時間や日程の明記を伝える必要がある。
- ・歯に関して↓
Y本S…歯科に治療の為、2回入院された。11本治療したと。
U羽…母から歯磨きの見守りをしてほしいと。
どこまで事業所が、健康課題に関して対応していくのか。

2023年度方針

- ・「ほのぼのソフト」「共有フォルダ」を活用し、職員間で情報の共有がスムーズに行えるようデータの整理等をしていきます。
- ・各データや書式をより整理し、マニュアル作成などを行うことで、職員の作業の簡略化・負担の軽減を行い、施設運営や仲間の支援により力が入れるように工夫していきます。
- ・ZOOM等を活用し、リモートでの会議や自治階などで活用できるように進めていきます。
- ・ピタゴラ連絡網を活用し、ご家族の皆様にもスムーズに正確な情報をお伝えできるようにしていきます。

(振り返り)

- ・共有フォルダの整理は、組織図を基に少しずつ整理を行ったが不十分だった。同様のフォルダがあったり、入力データが不十分なものもあったので、ルール等を明確にできていなかった。
- ・マニュアル作成は、各担当で取り組んでもらっているが、進捗状況や振り返りなどはできなかった。
- ・ZOOMの活用は、すてっぷ自治会やエアロビクス、関係者会議や研修でも活用していった。
- ・感染症関連や緊急時の状況共有としてピタゴラ連絡網を活用することができた。

2024年度方針(案)

- ・「ほのぼのソフト」「共有フォルダ」を活用し、職員間で情報共有をスムーズに行えるようにデータ入力、フォルダの整理等をしていきます。
- ・「ほのぼのソフト」の活用できていない部分に関して情報を入力し、関係者会議や緊急時対応時などに一定の情報を1度に確認できるように、情報を常に最新のものにしていく。
- ・マニュアル作成、データ整理を進め、職員の作業の簡略化・負担の軽減を行い、施設運営や仲間の支援により力が入れるように工夫していきます。
- ・ZOOM等を活用し、リモートでの会議や自治会などで活用できるように進めていきます。
- ・ピタゴラ連絡網を活用し、ご家族の皆様にもスムーズに正確な情報をお伝えできるようにしていきます。

一人ひとりの生活や今後の暮らしの方向性について、意思決定支援、チーム連携、地域課題としてとらえる視点を持ち、支援(サービス)のアイデアやプランを具体化し、相談支援活動をすすめます。

- (1) 受給者証の発行を堅持するために、セルフプランの協力を継続し、計画相談の取り組み方を工夫します。
- (2) 専門部会(3名体制)の活性化
 - ① 部会の月1回の開催 ミニ学習会 ケース検討
 - ② 学習 調査(統計)の積極的な取り組み
 - ③ 法人内事業所職員や関係機関との連携強化
 - ④ 利用者、家族の方への制度や情報の提供
- (3) 相談支援専門員の育成
 - 計画作成を含めた計画相談の業務を部員とともにすすめます。
 - 資格取得のための研修の受講を計画的にすすめます。

【概要】

2023年度は、上半期、下半期を通して、「暮らしの選択」がクローズアップされた1年でした。

1月に、グループホームでの生活をスタートした利用者、365日開所の個室型のグループホームを見学された利用者、2月に、グループホームを退去し一人暮らしを始めた利用者、また、現マンションの契約解除までに新たな物件をさがしている利用者、家族の高齢化介護度が上がり、今後の暮らしに悩んでいる利用者等々、一人ひとりのニーズは多様で切実です。相談支援専門員として利用者・家族や支援者の声に耳を傾け、話し合いを重ねて、とりわけ利用者の**意思決定**を大事にすすめてきました。

また、法人内の連携をはじめ、各サービス事業所、医療看護、行政、社協や後見人等、関係機関と連携をすすめてきました。連絡調整、情報共有、対話を通して、信頼関係を構築し「連携」を強く太くして、良い支援を提供することが利用者の生活の質を上げ、豊かなものになります。不十分な点は多々ありますが、この実践に確信を持ち、経験を蓄積、今後活かしていくことが重要です。

2月に事故があり、障害の理解、支援のあり方とともに、医療や他支援含めた多職種との連携・協働をいかにした利用者へのアプローチと取り組みの重要性を痛感しました。今後の実践課題です。

一方で、多くの利用者・家族の声や実態をまだまだ把握できていません。地域の課題としての取り組みは尚更です。次年度は体制強化を大きな柱に位置づけ、きょうされんの掲げる“障害者権利条約を地域のすみずみに”の姿勢を常に持ち、学びや活動に取り組んでいきます。

- (1) 下半期はさらに時間的制約により、セルフプランが増えました。その中で、一人暮らしを始めた利用者に新たなサービス等利用計画を立て、会議を実施したケースを報酬算定することができました。次年度の体制強化のもと具体的な計画を立てて、確実に進めていくことが求められます。 関係者会議 4名の利用者 計7回

2023年 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
サービス等利用計画	2名			2名	1名	2名		1名	1名		1名	
セルフプラン	4名	3名	1名	3名		5名	3名	2名	3名	4名	1名	

※サービス等利用計画はモニタリングが半年に1回、ケースにより毎月や3ヶ月毎に実施する

面談(家庭訪問)、関係機関の聞き取り、関係者会議の開催等が必須 確定版作成し、報酬算定が可

※セルフプランは年に1回 本人・家族に聞き取り、簡略化された計画書(セルフプラン)を作成

- (2) 下半期は全く部会を開催できず、年度初めに1回のみ開催に終わりました。部会を軸に相談支援事業をすすめられなかった要因は、管理者の責任の問題に尽きます。
- (3) 育成は喫緊の課題であり、法人として、具体的な育成計画を立てる必要があります。

- ① 家族会役員会とともに、家族の不安や疑問、要望に応じて、学習会を計画し、開催します。
- ② 創立40周年の取り組みに協力し、小さな規模のイベントを具体化(後援会とともに)し、交流の機会を作ります。

【概要】

(家族会の行事および家族が参加した行事) ※他に、後援会役員の家族の皆さんの取り組みがあります。

月日	取り組み	内容	参加
4月22日	家族会説明会	重要事項説明書 23年度事業報告(案) 職員紹介 家族会役員からのお知らせ 個別に個別支援計画の説明	21名
5月19, 20日	堀川まつり ボランティア	蒸しまん、ラムネ、かき氷、くるくるレインボー 他販売	13名
	京都市に暮らす知的障害のある人の暮らしの場の待機者・希望調査	佛教大学、田中教授ゼミ アンケート記載とインタビュー 調査スタート集会	4名
7月1日	家族会学習会	22年度決算報告 40周年の取組 フリートーク ※学習会に向けて役員会の開催	14名
9月16日	40周年記念事業ミニフェスタ	ワークショップ 販売 参加	22名
9月8, 22日	くるくるレインボー作業	まあるにて作成作業	8名
9月29, 30日	堀川まつり ボランティア	蒸しまん、ラムネ、くるくるレインボー販売	9名
11月20日	くるくるレインボー作業	まあるにて作成作業	5名
12月8日	40周年記念事業ミニフェスタ	バザーやガチャガチャ	16名+客

① 7月の学習会では、法人・事業の今後について、グループホームの運営がどうなるのか、新施設長はどんな人か、我が子は事業所をいつまで利用できるのかなどの質問が出されました。また、家族会として法人の経営を支えるために何ができるか、販売など取り組みを具体化しようの声も出ました。フリートークが好評で他施設の見学や子離れの課題、一人暮らしについての意見が活発に出て交流しました。

コロナが5類になり、行事や出店販売が増えて、くるくるレインボー等の作業や販売ボランティアに積極的に協力していただきました。また、佛教大学の暮らしに関する実態調査の取り組みに役員4名の方が参加し、暮らしの課題を学び深める機会となっています。

② 40周年記念事業は後援会役員の家族の皆さんと協力して、9月16日のミニフェスタに取組みました。

当日のボランティア、お客さんとしてたくさんの家族が来られ、交流の場となりました。

12月8日に第2弾ミニフェスタに向け、くるくるレインボーの作業日を設定し、当日も家族が参加交流しました。

家族会の活動に、担当職員を含むたくさんの職員が参加し、交流や行事の遂行に貢献しました。

下半期は、7月の学習会で出た要望の具体化には取り組めませんでした。暮らしの実態調査の報告会に役員さんを中心に参加されました。

家族の高齢化で、家族会に参加が困難な世帯への対応をどうしていくか、役員会で課題のひとつとなっています。

2023 年度きょうされん総括

担当 市内ブロック 刀上 林 日野
運営委員 刀上 林

(方針)

- 全国・京都府内の各事業所との交流や情報交換を通して事業所の実践に活かし仲間の願い、家族の願いの実現に向け現在の障害分野を取り巻く情勢と今後の動向を学び発信をしていきます。きょうされん加盟事業所として新型コロナウイルスの情報共有、発信に努めます。きょうされん全国大会埼玉大会 2023 の成功を目指して事業所としても現地参加も含めて取り組みを進めます。
- ・きょうされんの各会議への参加で、情勢学習、各事業所の近況交流や取り組みの確認を行い、事業所に持ち帰り通信や文書、口頭で報告を行います。月 1 回の市内ブロック会議、2~3 か月に 1 回の運営委員会には担当者が参加します。
 - ・利用者部会へ代表者を派遣し、会議の中で積極的な意見が出せるよう、担当と話し合っていきます。
 - ・きょうされんの取り組みに関する事項を必要に応じて、職員全体での共有、仲間・家族への発信を行い、活動への積極的な参加を呼びかけていきます。
 - ・研修への職員参加を呼びかけ、そこでの学びの共有を行い、実践に結び付けていきます。
 - ・きょうされんの活動や障害分野の情勢を広く地域に広げていくため賛助会員の拡大、国会請願署名・募金の組織活動に積極的に取り組みます。コロナ禍ではありますが街頭署名を他のきょうされん加盟事業所と協力し工夫して行います。
 - ・リモートで会議等に参加出来るよう事業所内で環境を整備します。
 - ・他の事業所とも新型コロナウイルスの動向や対応について共有し今後の対策、予防につなげます。
 - ・GH 部会に参加し情報共有等を行いまある・あつとの支援の質の向上に努めます。
 - ・全国大会について現地参加も含めて事業所として取り組みを進めます。

(概要)

- ・月 1 回の市内ブロック会議、2~3ヶ月に 1 回の運営委員会に参加をしました。対面での会議実施が増え、他事業所に行くこともありました。きょうされん主催の研修にも参加をしました。
- ・2023 年 11 月の全体会議のときにみやこ西院作業所の羽根田さんをお呼びして国会請願署名学習会を行いました。きょうされんのこと、署名活動のことを改めて知ることができたよい機会となりました。
- ・2023 年 5 月のメーデーで国会請願署名活動を久しぶりに屋外で行いました。
- ・2024 年 1 月に生協御所南で生協のエリア会さんに向けて署名学習会に利用者 3 名、職員 1 名で参加をしました。久々の対面開催で交流を深めることができました。
- ・2024 年 2 月に生協二条店前で生協の方と一緒に国会請願署名・募金活動を行いました。メーデー以来の久々の署名活動でした。街頭での署名活動がなかなかできていないため今後も方法などを工夫していく必要があります。
- ・きょうされん全国大会 in 埼玉に職員 2 名、利用者 1 名が参加をしました。ワークから久々の現地参加となりました。学びの場、全国の事業所とのつながり等を実感できる機会となりました。
- ・京都府、京都市への要望書作成に向けて意見等を提出しました。対府懇談にはワークより利用者 1 名、職員 1 名が参加をしました。要望を行政に伝えるとても大切な機会になりました。
- ・GH 部会では要望活動や各施設の共有を行いました。部会としてのグループホーム見学は延期となりました。GH 部会として 2024 年 3 月の障害福祉サービス事業所研修に参加をしレポート発表をしました。

- ・利用者部会はすてっぷの利用者2名、ワークの利用者1名が参加をしています。利用者部会全国代表者会議にも2名参加をしました。利用者部会の会議はリモートでの実施となっています。クアスポくちたんでの交流企画を予定していましたが場所が確保できずリモートでの実施に切り替わりました。
- ・2024年2月に利用者部会主催の〇×クイズ大会(リモート)に参加をしました。延べ300人ほどの参加がありました。他事業所のことを知る良い機会になりました。
- ・出席した会議の内容を全体にどう共有していくかは課題のままです。
- ・賛助会拡大を具体的にどう取り組むかは要検討課題です。
- ・署名活動、募金活動など昔のきょうされん活動を知る職員が少なくなっていること、日々の業務が忙しいことなどがありなかなかきょうされん活動に取り組めていないことも確かです。きょうされん活動の意義や目的を今一度職員間で共有していくことが大切だと思います。
- ・次年度は担当も変わるため引継ぎもしっかり行いながら事業所内でのきょうされん活動の位置づけを再度確認をしながら活動していければと思います。

2023年度 方針 相模原事件の被害者を悼む小さなつどい

担当 山田

(方針)

- ・津久井やまゆり園の追悼を継続して取り組みます。
- ・NPO 法人つくし、(社福)七野会と協力協働して取り組みます。

(振り返り)

- ・7月26日(水)に津久井やまゆり園の追悼を行った。
- ・100名程、参列に来られた。
- ・秋の取り組みは、体制が整えることができず中止となった。

毎月第4水曜 団体長会議の参加 地域に発信し、つながりを大事にすすめます。

【概要】

担当者いずれかが参加し、法人の事業の予定や協力を呼びかけました。聚楽だよりに掲載されたり、ミニフェスタのポスターを組長毎に掲示をして協力していただきました。

下半期は、11月4日聚楽区民のつどいに出店販売、前日準備等に参加しました。ミニフェスタ第2弾や避難訓練のお知らせなどし、協力を呼びかけました。

商店街

商店街の取り組みに積極的に参加し、役員の要請にこたえて活動し、役割を發揮します。
 宣伝部の担当、堀川まつりの会計とまつりの成功に貢献します。

【概要】

今年度は堀川商店街組合の宣伝部となり、5月、9月の堀川まつりの会計を担当し、取り組んできました。会議は5月と8月の2回で、連絡事項はLINEで行われました。宣伝部の構成員は新しい方が多く、上京ワークハウスも堀川まつりの参加は4年ぶり、当初は連携に苦慮しましたが、昔からの商店街の組合員さんと相談したり、理事長さんと直接やりとりをして、堀川まつりは無事終えることができました。11、12、1月と商店街プレミアム商品券の金銭の扱い(出金)を担当し、郵便局や商店街理事の方と連携しました。

中部自立支援協議会

- ① 部会に参加し、年間計画に基づいて学習会や取り組みに積極的に参加します。他事業所の経験に学び、事業運営に活かします。
- ② 虐待防止等の研修会に参加します。

【概要】

相談支援専門部会

(5月欠席)7月、9月と部会(部員5名)に参加し、(4月欠席)8月、10月と相談支援専門員カフェに参加しました(上京区総合庁舎4F会議室)。カフェのテーマは8月はアンガーマネジメントについて、10月はひきこもりの支援について、それぞれ講師を招き、後にグループワークをしました。参加者は10数名で基幹センターや単独相談支援事業所の職員の方が多く、意見交流や経験を聞く貴重な機会となりました。2月のカフェでは、まんまん堂のどら焼きを20個売り上げ、協力いただきました。

経営管理部

請求実務 経理補助・事務全般

第三者評価委対応チーム

担当 日野 塚本 岸本

法人全体の運営に関わる業務の標準化、改善点を、第三者評価の総括所見に基づき、計画的にすすめます。

【概要】

対応チームの開催を年度内に計画をしていましたが、実現できませんでした。管理者主任会議での、年間スケジュール、業務マニュアル・手順の作成を方針として提案してきました。年間スケジュールを各担当で作成しました(民主的な組織運営の確立の項で)。全体への周知や活用について十分に具体化できていません。

業務マニュアル・手順の作成に関しては、管理者(副施設長)からの具体的なすすめ方が指し示せておらず、各職員任せの現状です。

組織運営の到達点をリアルに分析し、次年度に取り組むことを整理し、提起することが求められます。

教育 研修

担当 日野 岸本

キャリアパス、研修計画を作成し、実践をすすめます。

(民主的な組織運営の確立の項で)

内部研修について、理事長による、新任、2年目、3年目研修を計画、実施しています。

外部研修について、資格取得(サービス管理責任者)、虐待防止研修、キャリアアップ等、各職員に受講できるようすすめました。きょうされんの学習会、研修に積極的に参加しました。

BCP策定

担当職員 日野 岸本

事業継続の計画(BCP)の策定、研修の計画、訓練の実施が令和6年度から義務化されます。

準備期間(令和5年度)で策定のスケジュールを明確にし、すすめます。

BCP策定のための学習・研修に参加します。

自然災害や新型コロナウイルスの発生により事業活動が中断し、損害が出ないように、組織体制、事前準備、発生時の対応方法を研究し、作成に着手します。

事業所の避難計画だけでなく、利用者個別の避難計画と連動したものになるよう意識して取り組んでいきます。

【概要】

BCP策定をすすめるために、担当職員を上京ワークハウス本体に定期的に(月2回から)シフトを確保し、取り組みました。コロナ感染者の発生やその他の業務遂行で定期的には実施してはできませんでしたが、少しずつ作業をすすめ、その他の経営管理に関わる実務(研修、通信関係契約等々)を担い、円滑に遂行する上で力を発揮しました。学習会やきょうされんからの情報収集等に努めています。

下半期もスケジュールをたてられないまま推移し、2月29日に法人事務局と担当者(日野)で、BCP策定を3月15日に案を作成し、3月の理事会で審議、確認することとなりました。24年度報酬改定のBCP未策定減算対策として早急に取り組むこととなりました。

感染症対策

担当者 日野 岸本

感染者の発生、まん延防止等に関する取り組みの徹底を求める観点から、委員会の開催、指針の整備、研修の実施、訓練の実施が令和6年度から義務化されます。

コロナ5類の移行に伴う、感染症対策の課題の整理と見直しをすすめます。

感染症対策委員会の開催準備

系統的な学習（京都市やきょうされんの研修）と情報収集に努め、事業運営の継続と『命と暮らし』を護ります。

対策の手順の明確化と手順に基づく取り組みを継続します。

手洗い、手指消毒、検温、血中酸素飽和濃度の測定、パーティションの使用、共有スペース・接触部分の消毒等を行います。

ピタゴラ連絡網の一斉配信による情報提供や、会議やコミュニケーション手段として、リモートの活用をすすめていきます。

【概要】

コロナ5類に伴い、利用者や職員に対する指針を見直し、それに基づいて取り組んできました。事業所でのマスク着用や手洗い、検温、消毒等の感染対策を継続してきました。ワクチン接種も7月に実施しました。しかし、感染対策が自己判断になり、社会全体が感染対策が緩和され、再び感染拡大がすすんでいます。ピタゴラ一斉配信での協力の呼びかけや情報提供を行い、混乱を最小限にすすめてこられました。適宜、リモートの活用もしています。

感染症対策委員会の準備や指針の整備等々はこれからです。

虐待防止・苦情解決

担当職員 早矢仕 島田 林 岸本

虐待防止委員会の開催 リスクマネジメント委員会 身体拘束等適正化委員会と合理的に委員会構成と会の開催をすすめます
スーパービジョンの活用 定期開催と支援
個人情報の取り扱い 呼称等の取り組みをすすめます。

【概要】

前年度1月に虐待防止委員会を開催し、身体拘束等適正化委員会と合理的に取り組むことを確認しました。1月24日委員会を開催しました。

身体拘束等適正化委員会の指針を作成し、指針に基づいて、今後、取り組みをすすめます。

ケースについてスーパービジョンを開催し、学びと実践をすすめてきました。

虐待防止の研修について 個別に外部研修の受講をすすめていますが、計画的にできていません。

内部研修(全体会議)は12月21日、事例検討と被虐待について学習をしました。

日常的に、支援を振り返り、不適切な行為や虐待の芽がないか、個別と集団的に取り組むことが重要です。セルフチェックの定期実施や朝礼・夕礼でのヒヤリハット・苦情案件からの振り返りを継続し、強化します。

虐待事案の発生から、行政に通報し、安心して生活を送れるよう、関係機関と連携し、支援をすすめてきました。

相談支援専門員を中心に、虐待の疑いや発生を早急にキャッチし、必要な支援をすすめられるよう、集団的に意識的に取り組みます。

作業面（方針）

- ・下請けの年間サイクルの作成に努め、仕事をトータル的にみて進めます。
- ・作業手順など、分かりやすい伝え方を努めます。
- ・仲間の実態に合った、作業道具の配置や作業環境を整えます。
- ・下請け作業は、納品数や納期に応じて作業の調整を行います。
- ・仲間・職員で自主製品の開発に向けて、アイデアを出し合います。
- ・すてっぷ系屋と、仕事状況など相互に連携を取ります。
- ・下請けの減少がある場合、仕事の取り組み方をワークハウス・すてっぷ系屋との全体の課題として対応します。

（振り返り）

- ・下請け減少時、具体的な仕事の取り組み方を考えることはできなかった。
- ・下請け減少時、ねじ、わた、カタログパンチやひも切りなど、チャレンジすることができた。
- ・2階フロアの仕事がない時は、主に紙ちぎりをしている。仲間にも合った、作業の取り組み方が求められる。
- ・作業道具では、仲間にも合った入れ物の大きさや道具の配置を工夫した。
- ・下請け減少時、すてっぷ系屋と仕事状況を確認し合った。

生活面（方針）

- ・日々の仲間の健康観察で、日々の手洗い・手指消毒・検温・マスク着用に努めます。
- ・気持ちがいしんどくなってきたときは、ソファなどを利用してクールダウンできる環境を整えます。
- ・年齢に合った、血圧測定・服薬・受診同行・見守りなど視診も含め、ADL維持など丁寧に見守ります。
- ・仲間の様子を、各事業所や世話人、主治医、ご家族に情報共有していきます。
- ・仲間のケースについて、フロア会議や日々の夕礼の中で、相談支援と情報共有していきます。

（振り返り）

- ・手洗い、消毒、検温、マスク着用に努めた。
- ・しんどい時に仲間が落ち着く場所で、1階厨房前ソファや2階廊下を利用した。また、自室などにパーテーションを付けた。
- ・仲間が年齢を重ねるにあたって、受診同行が増えている。1人ひとりに合った、ADL維持を考えていく必要がある。
- ・仲間のケースについて、相談支援と情報共有した。
- ・S木の作業空間や、S川の休憩場所の環境設備が必要になる。

(方針)

- ・下請けが減少時、仕事の取り組み方をワークハウス・すてっぷ糸屋との全体課題として考えます。
- ・ワーク商品開発(食品外)担当の島田と協力し、仲間・職員で自主製品の開発に向けて、アイデアを出し合います。
- ・すてっぷ糸屋就労担当の早矢仕と、仕事状況など連携を取ります。
- ・仕事の段取りなど、丁寧な引継ぎをしていきます。
- ・厨房職員が休みの場合は、事前に業務共有します。

(振り返り)

- ・下請けが減少時の具体的な策は、考えることができていない。
- ・自主製品で、布のマスキングテープ、マグネット、フェルトに取り組んだ。
- ・厨房職員が休みの場合は、夕方の打ち合わせで確認を取った。
- ・週案にフロアと厨房の体制表を作成した。

ワークハウス下請け

(方針)

- ・下請けの年間サイクルの作成に努め、仕事をトータル的にみます。
- ・下請けの減少時期を踏まえて、対応策を考えていきます。
- ・年間を通じて、仕事への定着化をはかります。
- ・作業ミスがないように、職員間で情報共有します。
- ・下請け業務では、職員が把握できるように伝達を強化します。
- ・作業手順など、仲間に分かりやすい伝え方を努めます。
- ・仲間の状況に合わせて、道具の配置や工夫をします。
- ・タカギ繊維さんの請求締め切りは20日のため、期日を守ります。
- ・おみがきでは、経験がない職員や仲間に作業手順の伝達に努めます。

(振り返り)

- ・下請けの減少時期を踏まえて、具体的な対応策は考えられていない。
- ・下請け減少時、2階班は紙ちぎりが中心になる為、仲間に合った作業の取り組み方が必要になる。
- ・下請け業務(タカギ繊維)のマニュアルを作成済みに留まっている為、職員に周知できるように努める。
- ・タカギ繊維のわたを中心に取り組んだ。
- ・ねじは10月から復活したが、2月上旬から入荷がないとのことでストップした。
- ・てぐすは職員が行っていたが、仲間も仕事としてできるようになった。
- ・ダイレクトメールは、ワークハウスで取り組んだ。宛名貼り、冊子入れ、封緘作業を分担することができた。数量が合わないなどの、大きなミスはなかった。
- ・おみがきは、主に刀上が中心となり取り組んだ。経験できていない職員もいる為、引継ぎができるように努める。

清掃

(方針)

- ・週に、商店街そうじ2回・駐車場そうじ4カ所(1カ所は月1回)へ行きます。
- ・カラービブスの着用に努め、車両や歩行者に注意し、安全に取り組みます。
- ・新型コロナウイルス感染予防で、カラービブスの使い回しはせず、各自で着用します。
- ・2階の仲間のカラービブスについて、着用できるように工夫していきます。
- ・清掃後、手洗い消毒を徹底します。
- ・仲間に合った、掃除道具を使用します。
- ・気候に応じた服装で、取り組みます。
- ・地域や商店街の方にあいさつを積極的に行います。

(振り返り)

- ・夏の駐車場掃除は、熱中症対策で車を利用した。
- ・厳しい寒さの中、駐車場掃除4カ所に行くことができた。
- ・カラービブスの着用に努めた。
- ・カラービブス1階は各ロッカーへ、2階はフックに掛けるようにした。
- ・仲間にあった、掃除道具を工夫し利用することができた。
- ・今年の夏は猛暑で、仲間の体調を考え、商店街そうじを週に1回にした。また、熱中症対策補水液を飲んだ。
- ・商店街そうじの帰りにまんまん堂に寄り、空き缶や段ボール、油を持ち帰った。

配食

(方針)

- ・ワークハウスは、月曜日3件の配食に行きます。
- ・渡し間違いのないように、丁寧に届けます。
- ・利用者に元気な挨拶を届けます。
- ・車両や歩行者に注意し、安全に取り組みます。

(振り返り)

- ・配食が月曜日2件となった。
- ・配食のマニュアルを作成したので、引き継いでいく。
- ・利用者に元気な挨拶を届けた。

自主製品(ワーク)

担当職員:島田

【 2023年度方針 】

- ・今年度は、徐々に出店の機会やイベントへの参加が増えてくることが予想されます。感染状況を鑑みながら、販売の機会を増やしていきます。
- ・下請けの仕事の合間に可能な範囲で自主製品づくりを実施していきます。
- ・毎週木曜日にさをり織を保護者様のお力もお借りしながら、実施していく予定です。
- ・仲間の得意なことを活かした自主製品を考えていきます。
- ・ハートプラザ KYOTO(三条)への商品登録を行い、販売を目指していきます。

【 2023年度総括 】

- ・春や秋など、昨年度に比べて出店や販売の機会が多くありました。
- ・下請けの合間に、マグネット作り、布巾のループへの刺繍に取り組みました。新商品として「ぬのふれーくしーる」、「フェルトのキーホルダー」の開発もしました。
- ・さをり織については、指導員がおらず現在中止しています。

方針

- ・今年度も仲間を中心に充実した自治会活動を目指していきます。
- ・仲間1人1人の思いや希望を出し合い、感染症対策しながら楽しめる活動を考えていきます。
- ・各種レクリエーション、行事などの内容について仲間からの意見や思いをできるだけ反映した内容になるよう工夫していきます。
- ・仲間が主体的に参加できるように提示の工夫、全体の見通しや、雰囲気、環境を整えていきます。
- ・「今年も色々な楽しい思い出が出来たね。」と思えるような自治会にしていきたいと思います。

(年間行事内容)

グループ別半日旅行、サマーパーティー、グループ別一日旅行、(M宅)さん歓迎会、忘年会
誕生日会

(振り返り)

・誕生日のクイズも一年を通して繰り返し行ったので、流れが分かり、利用者さんも見透しを持って参加していました。役員さんたちの動きも、何を準備するかが分かり見通しを持ちだしていました。一度利用者さん同士のやり取りが大きく発展してしまい自治会を中断することがありました。それを機に利用者さん同士が「仲良くなあかんで」「けんかはあかん」等、発展しそうになると自分たちで場をおさめる姿がありました。

(イベント)

11月(ミシガンクルーズ)12月 忘年会(ビンゴゲーム 昼食「鳳舞楼」ワークにて久保さんのお別れ会) 1月 新年の抱負 2月 誕生日会、能登半島被災者に向けて黙とうをしました。 3月 最後の自治会お楽しみ会。

ワーク自治会の行事で行先や内容など一人一人紙に書いてもらい意見集約しました。
自治会での説明や発表の時には、写真と文字を添える等工夫しています。

(改善)

・イベントに対する期待感が高く楽しみにしている様子が見られた。行事の内容や行先など、もう少し利用者さんの意見を反映できたらよかった。

2023年度総括

創作活動

ワーク担当職員:島田

【 創作活動 方針 】

- ・今年度、外部からの専門スタッフ(スタジオぐるり)2名を招き、ワーク・すてっぷにて創作活動の実施をしていきます。
- ・毎月、ワークとすてっぷ交互に実施していく予定です。
- ・余暇活動として仲間を楽しんでもらうことで、日々のお仕事や生活の活力に繋がることを目指します。
- ・創作活動を通して、仲間の力の再発見や、副産物として自主製品のアイデアに繋げられるようなことも視野に実施していきます。

【 創作活動 2023年度総括 】

- ・毎月、創作専門スタッフ(スタジオぐるり)2名に来ていただき、ワークとすてっぷ交互に創作活動を実施しました。
- ・4月、5月はクリアファイルとカラーペンを使い、ペアになったお互いの顔をなぞり描きする「スケルメン」。6月、7月は針金にカラーストローやビーズなどを通して作る「モビール」。8月、9月は絵具にビー玉を浸して紙の上を転がして描く「ビー玉コロコロ」。10月、11月は木の枝に毛糸などの素材を巻きつける立体作品「毛糸まきまき」。12月、1月は日常にある物を組み合わせて作る「ヘンな筆」。2月、3月はスチレンボードに鉛筆や型抜きなどで文字やイラストを描いて刷った版画「スチレン版画」。以上の作品をつくることができました。
- ・創作活動は、仲間にとっての楽しみの時間のひとつになっています。
- ・絵を描くことや物をつくることに苦手意識を持っていた仲間も、「楽しかった!」と創作の時間を楽しんでおられる様子、最後まで夢中になって取り組んでいた姿も見られました。
- ・専門スタッフがいることのメリットとして、仲間はもちろん職員も一緒に楽しむことができました。また、そのときの仲間の様子を丁寧にキャッチし、柔軟に対応いただくことで、仲間も安心して楽しい時間を過ごせることができます。
- ・毎回作品がそろった段階で、定期的にまんまん堂への作品展示も行っています。お客様からも好評です。(1月2月は他の展示と重なった為、展示せず。)

2023 年度生活支援部会 総括

担当職員：島田 清水 堀 早矢仕 刀上 林

2023 年度生活支援部会は 5 月、7 月、10 月、3 月の計 4 回実施をしました。あっと・まあるの利用者の状況、モニタリング案、世話人についてなどホーム担当で議論、共有をしました。職員間でも知らない事象も多くお互いに共有をすることで次の支援につなげることができました。

日々の業務もありなかなか会議そのものを開くことができませんでした。月 1 回第○曜日にする、など固定してしまったほうが実施しやすかったかもしれません。来年度は入居審査の関係もあり月 1 回第一木曜日に実施予定です。

世話人会議をあっと・まあるでそれぞれ 4 回実施しました。世話人対象の研修は開催することができませんでした。日々の業務もありなかなかそこまで余裕がありませんでした。

2023 年度総括

グループホームあつと・ショートステイあつと

サービス管理責任者／早矢仕 直樹
管理者／島田 紗希
生活支援部会部員(あつと担当)／清水 奈々

【 グループホームあつと 方針 】

今年度もコロナやその他のウイルス感染について不安の多い中ですが、その中でも安心して生活していけるように、また開所し続けられるように消毒・室内の換気・手洗いの徹底・仲間や世話人の日々の体調管理などを続けていき感染防止に努めます。また状況を把握し、法人と相談しながら必要な手立てや対策をとります。

堀川商店街や近隣住民との関係を深めながら、生活の場としての実践を進めます。

年を重ねるごとに、体調面・衛生面での支援が大きく必要となってきました。職員、世話人、医療機関、関連機関と連携していきます。

仲間同士の関係や仲間と世話人との信頼関係を大事にゆっくりと構築していきます。また世話人と日中職員で情報共有をしっかりと行い、連携を強めていきます。

- ・個別支援計画を職員、世話人で共有し、ホームでの生活が楽しい時間・くつろぎの時間・安心の場となるように進めます。
- ・健康面での配慮をしながら、仲間の様子を観察していきます。訪問看護職員と連携していきます。受診には受診同行ヘルパーを利用することも多くなります。医療機関・ヘルパー・関連機関との連携を強め情報を共有していきます。また、今年度も感染対策(消毒・室内換気・検温を行い体調の把握・手洗いの徹底)を続けます。
- ・衛生面として季節に応じた衣類の調整、各部屋の掃除などいっしょに行ないます。入浴への声かけをし、必要に応じて入浴支援を行います。
- ・防災訓練を実施し、非常時に備えます。年に一回程度業者による清掃作業に入ってもらい、普段できないところの清掃をしてもらいます。
- ・堀川団地の組長になります。さまざまな取り組みの中で団地の方との関係を深めます。
- ・世話人と日中職員とのコミュニケーション・情報共有をしっかりと行い、安心して泊まりの勤務に入れるようにしていきます。世話人会議を定期的で開催し、障がいの特性などを学び、悩みや不安を共有し、いっしょに考えていく中で関係を深めていき、世話人の定着と支援の充実へとつながるようにしていきます。
- ・仲間・家族からの要望にも耳を傾け、必要な時には家族との連絡を密にして、連携していけるようにしていきます。

【グループホームあつと 2023年度総括】

今年度、あつとでは新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症に大きく影響することなく、開所し続けることが出来ました。新型コロナウイルスも5類に移行になり、コロナ前のようにあつとで調理のお手伝いをしたいという利用者の要望が出ています。引き続き、感染症対策を講じながら、可能な範囲で調理や行事など共同生活だからこそ出来る様々な経験を提供していきたいと思います。

健康面について、現在3名のうち2名が訪問看護を利用されています。お薬の管理や身体のケア、利用者の健康相談等、丁寧に対応していただき、毎日の健康維持に繋がっています。情報共有については訪看ノートの活用、日中職員の同席等で対応しました。また、利用者の受診については、日中職員やヘルパーが同行し、定期的な通院を続けられました。

衛生面については、季節にあった衣類の調整や居室の清掃など、世話人や日中職員と連携して実施していきました。入浴支援が必要な利用者への介助や声掛けも世話人を中心に行いました。

避難訓練を7月11日と2月26日に2回実施しました。今年は能登半島地震もあり、ますます災害時への備えが重要になっています。災害発生時、世話人1人での対応を余儀なくされるケースも考えられるので、日頃から災害への意識づけや、不安の共有等の時間をもつことが必要と考えます。

人材面では、9月と11月に新しい世話人が1名ずつ増え、1月に1名退職されました。2月現在世話人は8名(+1名は休職中)という体制になっています。泊まり2人体制を取ることはかなり厳しい現状が未だ続いています。利用者や世話人に負担や不安のないよう、夕方支援や朝支援など部分的にでも支援やフォローを入れる等、工夫をしました。新しい人材の確保について、処遇面の改善も含めて、早急に検討していく必要があります。

上半期に続き、下半期のあつとも大きく変化しました。1月に新しい利用者1名がご実家暮らしからあつとに入居、2月には長年あつとで生活をしてきた利用者1名が卒業され、ひとり暮らしをスタートされました。グループホームという場所が、ケースによっては次の暮らしへの通過的な位置づけ・役割も担っていることを改めて実感した出来事となりました。新しく入居された利用者については、世話人体制の脆弱さゆえ、特例で他事業所のヘルパーの支援を受けていただきながら利用をされています。法人としては、正直なところ減算(他事業所の支援が入る場合)という痛みもありますが、法人理念に基づき、可能な限りご本人やご家族の望む暮らしに少しでも近づけていく努力を続けていきたいと思っております。また、ご本人は新しい生活で不安と期待をいっぱいお持ちです。ヘルパー事業所、世話人、職員間で丁寧な連携を図っているところです。そして、ひとり暮らしをスタートされた利用者に関しても、新たな生活での不安や希望などを聞き取りながら、引き続きワークハウスでサポートを続けています。1名の空きに関しては、今後募集を募り、入居希望のご本人やご家族との面談を重ね、入居者審査委員会にて協議し決定していく予定です。

今年度は、2名の卒業、1名の入居と入れ替わりの多い1年となりました。新しい生活を始められた利用者もそうですが、今もあつとで暮らし続けている利用者にとっても環境の変化は感じておられると思います。新しいメンバー、先輩メンバー、お互いにとって安心安全なあつとになるよう支援を続けていきます。

【 ショートステイあつと 方針 】

仲間の自立と体験に向けた場、家族の緊急事態に対応する場としての役割を果たします。
仲間や家族のリフレッシュのための場としても定着しており、今年度も楽しく安心して過ごせるように進めていきます。

- ・利用者が安全かつ安心して楽しんで宿泊できるように支援します。
- ・感染対策(消毒・室内換気・検温を行い体調の把握・手洗いの徹底)を続け衛生管理に努めます。
- ・職員と世話人の申し送り、情報共有をしっかりと行います。
- ・連絡帳や持ち物チェック表を通じて家族との連携を図ります。必要に応じて家族との連絡を密にします。
- ・服薬の確認、荷物確認を入室時と退室時に行ない、ミスが起こらないようにします。
- ・防災訓練をグループホームとともにを行い、非常時に備えます。

【 ショートステイあつと 2023年度総括 】

毎月約10~12名の仲間がショートステイを利用しています。連泊や月に2回の利用を希望している仲間も増えました。ショートステイ利用の希望が増えている一方で、世話人体制は未だかなり厳しい状況です。2名の泊まり支援体制を取ることが難しく、泊まり1名体制の日も多々ありました。引き続き、希望日を変更していただく等、ご本人やご家族とご相談させていただきながら進めていきました。

また、入浴介助等の生活面での支援、また精神面のサポートを必要としている利用者もおられると思います。同じ利用者に対して毎回同じ世話人をつけるということは現状難しいため、関係づくりに時間を要することもあり、世話人だけの対応が難しいこともあります。ワーク日中職員を中心に朝や夕方の方のフォローをしていますが、今後どのような形で進めていくが検討が必要です。今後、さらにショートステイの利用希望が増えていくと思います。十分な世話人体制の確保に努めながら、ショートステイの安心・安全な運営を行っていきます。

2023年度グループホームまある総括

まある担当：早矢仕 刀上 林

方針(前文除く)

- ・個別支援計画に沿ってホームでの暮らしが安心してくつろげる場になるよう支援します。
- ・入居者の過ごしの様子を見守り、ホーム全体の美化に努めるとともに、必要に応じて居室の清掃・整容の介助・衣類の洗濯を個別に行います。新型コロナウイルスの感染防止の観点から各居室内の換気も行います。ホーム専任職員による週一回の清掃を行います。
- ・入居者の私物を見分けるために、入居者の私物には名前を明記していただくよう声掛けを行います。
- ・入居者の生活の様子、見守りを行い健康管理に努めます。服薬管理については飲み忘れのないように世話人と状況を共有しながらしっかりチェックします。定期受診の同行を必要に応じて行います。また、手洗いの徹底・検温を実施し新型コロナウイルスの感染防止に努めます。
- ・ひとり一人の生活の自立へのチャレンジを見守るとともに、コロナ禍ではありますが入居者同士の関わり合いで楽しく過ごしていけるよう工夫して支援にあたります。入居者全員を介しての食事は感染状況も見ながら判断をします。
- ・世話人とアイデアを出し合い住環境、生活環境、備品等の整備を進めます。
- ・各家庭と連絡ノートを通じて日々の過ごしの様子を伝え、家族の要望にも耳を傾け実践にあたります。「まある通信」を発行しホームの状況を分かりやすく伝えていきます。また入居者家族の清掃等のボランティアを通じて相互に要望等を出し合える環境を整えます。
- ・月1回(第三土曜日)の開所を昨年度に引き続き行います。
- ・年2回、防災訓練を実施するとともに物資の確保など非常時に備えます。
- ・世話人対象の障害や虐待などの学習会を行い支援の質を高めます。
- ・3ヶ月に1回の世話人会議で情報の共有を行い今後の支援について考えます。世話人会議では個別支援計画やモニタリングの論議、ケースの共有など幅広く議論をします。世話人有志の学習会についても事業所として支援をします。世話人と共によりよい支援ができるように相互に協力していきます。
- ・昨年度に引き続き支援記録はipadを活用します。ipadや支援記録ソフトの有効活用を進めていきます。

今年もあつという間の1年でした。来年度で現在のまあるに移って7年目になります。

グループホームまある

新型コロナウイルスが2類から5類に移行したこともありコロナの影響を受けることは少なくなり安定的に開所をすることができました。基本的な感染対策である手洗い、消毒、換気などは引き続き徹底をしていきます。体調不良については肩の脱臼、下痢嘔吐などで急に帰宅される方もおられました。入居者の急な体調の変化には今後も気にかけて迅速に対応できるようにしていきます。

引き続き週一回堀さんに入っていただき共有スペースや居室などを清掃していただきました。栄亭さんのハウスクリーニングにも入っていただきエアコンや換気扇等を清掃していただきました。ホームの美化を保つためにこまめな清掃を引き続き行う必要がありますので引き続き世話人には清掃の徹底を促します。

利用者の収集癖や落書きが目立ちました。今後どのように対応をしていくのかは課題が残りました。近隣の方からの苦情はあまりありませんでした。ゴミの捨て方について何度かご指摘を受けることが

ありました。地域の方に理解を得ながら対応を考えていきます。

2023 年末に 1 階リビングでお鍋を囲む会をしました。居室でご飯を食べる方もおられましたが何名かはリビングで久々に世話人と一緒にご飯を食べました。これ以外は特にイベントを開くことはできませんでした。入居者ご本人、ご家族、世話人を交えた交流もどこかで行いたいとは考えていますがなかなか実現できていません。

月 1 回の土曜開所も定着しています。利用者は基本 3 名です。

世話人会議は 4 月、5 月、7 月、11 月の 4 回実施することができました。世話人の中からは定期的な開催を望む声もあり検討、考慮していく必要があります。5 月には有志の世話人、職員で自閉症についての学習会を実施しました。非常によい取り組みでしたが準備の負担もありコンスタントに実施することはできませんでした。

世話人対象の研修は実施することはできませんでした。本来ならば実施すべきかとは思いますが職員の側の余裕がなく実施することができませんでした。

まある通信は今年度も一度も発行することができませんでした。来年度は新しい世話人の紹介、退職される世話人についての紹介だけでも扱えたらと考えています。

アパート型の GH に転居を考えておられる方 1 名、年度末でまある退去を考えておられる方 1 名おられます。入居者一人一人の将来や今後についても考えていく必要があります。まあるが通過施設としての役割も帯びてきています。365 日の受け入れは困難な状況ではありますが入居者、利用者、ご家族の今後に向けて他の選択肢の提示も含めて少しでも寄り添っていければと思います。

鏡石町の地藏盆に職員が手伝いに参加をしました。かき氷機を貸し出しました。地域とのかかわりを深めることができました。「次回は利用者の方の参加も」と担当の方に言っていただきました。

来年度は入居者の退去に伴って入居審査委員会が行われます。新たに入居することになる入居者の方がスムーズに新しい生活に馴染んでいけるように世話人とも協力していきたいです。

利用者、世話人も含めて長期的な視点で物事を捉えることを忘れないようにしていきたいです。

ショートステイまある

ショートステイは毎月 5 人程度が利用しています。1 名の利用者を除いて月平均 1～2 回の利用でした。毎月家族に利用日の希望を取りながら利用していただいています。1 名の利用者は昨年度に続いて他のショートステイ希望者がいない日はほぼ毎日利用されました。ショートステイの在り方、ご家族やご本人の希望などもう一度確認をする必要があるかと思えます。

血糖値が高く薬を服薬されている方が 1 名おられます。現在特に食事面での制限はありませんが今後配食サービス等も考えていく必要があるかと思えます。

2023 年度総括 広報(ワークハウスつうしん)

(担当) 刀上 山根

(方針)

ワークハウスに興味を持ってもらえるような、応援してもらえるような、読んで、見て、わかりやすいつうしんをつくっていきたいと思います。お願いやお知らせは期間に余裕をもって伝えられるように、出来事や行事は旬のことを伝えられるように発行していきたいと思います。年度 4 回の発行が滞らないように内容・原稿依頼・編集・発行準備を計画的に準備していきたいと思います。

(総括)

今年度のワークハウスつうしんはNo.201(6月発行)No.202(8月発行)No.203(11月発行)No.204(2月発行)の4回発行しました。発行部数は約1600部(郵送分約500部 地域配布約1000部 ワーク関係予備含む約100部)でこの数年と同じような形となりました。

《つうしんの主な内容》

No.201 後援会総会のお知らせ、40周年にあたり理事長、後援会会長のあいさつ

きょうされん賛助会・後援会入会・更新、ひろがれ夢募金の取り組みのご協力のお願い(入会申込書、返信用封筒、振込用紙を同封)

No.202 後援会総会の実施

役員紹介・2022年度法人決算報告書

No.203 40周年記念行事第1弾ミニフェスタの実施

ひろがれ夢募金の取り組みのご協力のお願い(振込用紙を同封)

No.204 40周年記念行事第2弾ミニフェスタの実施

きょうされん国会請願署名・募金、優生保護法案署名の取り組みのご協力のお願い(署名用紙、返信用封筒を同封)

今年度はワークハウス設立40周年にあたっていたので、巻頭ページはそれにまつわる記事を掲載しました。発行に関しては予定日を設定し、それに合わせて進めることができました。記事の内容について職員以外の方からの投稿など具体的に進めることができませんでした。ワークハウスつうしんの紙面について声を聴く機会を設定できればよかったですと感じています。

2023年度方針

・ワークハウスつうしん

ワークハウスに興味を持ってもらえるような、応援してもらえるような、読んで、見て、わかりやすいつうしんをつくっていきたいと思います。お願いや、お知らせは機関に余裕をもってお知らせできるように、出来事や行事は旬のことを伝えられるように発行していきたいと思います。年度4回の発行が滞らないように内容・原稿依頼・編集・発行準備を計画的に準備していきたいと思います。

・ホームページ/SNS (フェイスブック)

ホームページでは、ワークハウスの動きとして、物品配達や出店販売などのお知らせを随時掲載していき、全体が分かるように情報の更新をしていきたいと思います。SNSでは、イベントや物品販売などの情報だけでなく、自主製品などの情報もお知らせできるように、フランクに活用・投稿できるようにしていきたいと思います。

(振り返り)

ホームページ/SNS

- ・物品販売のカタログや出店販売の情報を随時掲載していった。
- ・自主製品についての情報発信、SNSの活用の2点を進めていくことができなかった。

2024年度方針

・ワークハウスつうしん

・ホームページ/SNS (フェイスブック)

ホームページでは、ワークハウスの動きとして物品カタログ・配達や出店販売などのお知らせを随時掲載していく。SNSの活用によりイベント情報や物品販売、自主製品などの情報を広く発信できるように目指していく。

(ワークハウス すてっぷ系屋共通)

物品販売

担当 … 刀上、塚本、(山名)、早矢仕

方針

「つながり」を大事に、ワークハウスの近況などの情報発信のひとつとして、多くの方々・事業所へカタログを配布し、商品を届けます。

- ・ 仲間の工賃アップ、ボーナスへの充当のため、物品販売に取り組みます。
- ・ 後援会事務局とそれぞれの物品の取り組み時期を確認し、受注・仕分け・配達が期限ぎりぎりに偏らないよう、カタログ作成や配布を早め早めのテンポで行うよう心掛けていきます。
- ・ 自主製品の在庫把握や、新商品の掲載に関して、厨房・自主製品それぞれの担当と話し合っています。
- ・ 遠方の関係者へは、カタログの郵送、商品の宅急便配送も必要に応じて行い、カタログの渡し忘れ、商品の遅延が起こらないよう注意していきます。

(取り組み目安)

- 夏物品 5月10日頃 ～ 8月10日頃まで
※ 後援会、きょうされん賛助会更新と併せて
- 冬物品 10月10日頃 ～ 12月20日頃まで
※ きょうされん署名と併せて
- バレンタイン物品 1月明け ～ 2月10日頃まで
※ きょうされん署名と併せて

総括

ワークハウスの40周年を周知するツールも兼ねたものとなるよう、40周年記念商品を新たに掲載し販売することに努めました。掲載商品選びや準備には時間をかけてしまいました。カタログ作成は職員一人が担当、表紙や掲載ページのデザインは目を引くものとなり、今年度も多くの注文をいただきました。

仕分けと確認の作業の分担が不十分で商品違いや不足の連絡が配達先より多くあり、他の配達へも影響してしまうことがあり、今後の対策が必要です。

厨房とは、配達スケジュールや製造スケジュールの連携に課題が残りました。過重負担とならない製造現場の状況の把握と、お客様への連絡対応の仕方を考えていく必要があります。

厨房 【商品開発】

担当 栗林
指導 友藤さん

方針

【製造】

仲間は9時20分からの作業ですが、ワークにたくさん来所できるよう柔軟に対応していきます。昨年は取り組むことができなかった商品開発ですが厨房の仲間はもちろん友藤先生や厨房メンバー以外の意見も取り入れ、開発に力をいれていきます。

例年通り物品販売に加え、今年は出店販売も多くなることが予想されます。咲あんの通常営業も再開した為、蒸しまん製造に今まで以上に力をいれ、計画的に取り組んでいきます。また、衛生面観点でも去年の課題を払拭できるよう、取り組んでいきます。

【給食】

給食メニューでは厨房メンバーを中心に仲間からの意見があれば積極的に採用し、みなさんに喜んでもらえるような給食を目指していきます。

今までは水曜日だけの給食でしたがカフェ担当の仲間が給食を食べれない為、1か月交互で水曜日と木曜日交互に給食を実施していきます。

新しくワークの仲間が一人厨房にきました。

給食の片づけで洗い物などを頑張っています。

まだ慣れていないことが多いですが厨房の仲間とも仲良く作業している為、楽しい雰囲気そのままに見守っていきます。

(振り返り)

仲間は9時20分からの作業で、集中して作業にあたっています。

新しい厨房職員との関係も良好で日々の様子を話したり、やり方を教えてくれたりしています。

去年は取り組めなかった自主製品ですが40周年にあたってチーズケーキとどら焼きの製造をしました。みんなで生地を焼いたりして仲間からも「またやりたいです」と楽しそうな様子でした。

物品販売やコープ二条の出店販売で新商品の販売をすることができましたがカフェでの販売には至らなかったので来年度目指していきます。

蒸しまん製造では出店販売もあり、大量に製造しました。製造量が増えてきても品質の改善に取り組みました。一方であんまん和鶏ごぼうの完成品が同じ袋で混ざってしまうことがありました。

あんまんの形をしっかりと成形して見分けがつくように統一していきます。

衛生面については繁忙期の中でも定期的に清掃することができました。

給食は奇数月が水曜日、偶数月が木曜日で取り組みました。

友藤先生のアドバイスもあり今まであまりやってこなかった魚を使ったメニューも採用しました。

仲間からのリクエストもあり、みんなが楽しんでもらえるようなメニュー作りができました。

方針

去年はテイクアウトでの営業でしたが今年度から様子をみながら通常営業を再開することができます。軽食も再開する為お客さんが増えることが予想されますが仲間が混乱しないように声掛け・サポートしていきます。

字を書くのが苦手な仲間がいるためオーダーをもっとわかりやすくするなど工夫していきます。

去年は職員間でのルールや仲間のこと、連絡事項など共有しきれていないところがありました。

軽食などが再開するので今まで以上に共有するべきことが増えると思います。

今までのやり方を参考にしつつ、改善した方がいいことはその都度話しあっています。

(振り返り)

1年を通して通常営業を続けていくことができました。

今年度から再開した軽食ですが、衣笠丼やカレーなど1日に2食程の提供となっており、ソフトクリームやコーヒーの提供が多かったです。

仲間は直接食材を触る作業以外はほとんど担当しており、コーヒーも豆を挽くところからすべての工程に取り組んでいます。蒸しまんをトングでいれたりなど今年度から新しい仕事を担当している仲間もおり仲間のやりたい気持ちを尊重できるよう努めました。

新しい職員を迎えてのカフェ職員会議では様々な疑問や課題、それに対する対策を考え実行しました。常に一人体制の為職員が不安に感じることもあります。そのためワークやすてっぷの様子がわかるように打ち合わせを FAX で送るようにしました。仲間がどのような様子かわかることでカフェでの支援につながっています。

開封済みの賞味期限や記録の記入事項の確認、営業時間についての確認も行いました。

一方で清掃については定期的に取り組むことができませんでした。大型連休の前などに床や換気扇を定期的に掃除していく必要があります。

まんまん堂

担当 栗林

方針

去年に引き続き、通常営業を続けられるように努力していきますが、通常営業ができない状況になった場合はテイクアウトなどできるだけ売上げが落ちないように努力していきます。
12時頃からお客さんが集中することが多いです。食数が決まっている為以前に比べて仲間が混乱することは減りましたが、それでも一気にお客さんが来た時には忙しくなります。
仲間の老化もあり、職員のサポートが必要な場面が増えてきている為今後どうしていくか様子をみながら検討していきます。
仲間が自分から「この仕事やりたい」となった際には職員同士でルールを共有し、本人のやる気を引き出せるようにしていきます。
厨房、咲あんとも協力しながら売上げアップを目指した取り組みを考えていきます。

(振り返り)

ランチでは12時頃からお客さんが集中し、仲間が混乱してしまうこともありますが、通常営業を続けていくことができました。

仲間の声がでにくくなっていたり、お客さんがたくさんいてもボーとしていたりなど年齢による問題もでてきています。

新作焼き菓子の定着はできませんでした。

売上げアップの課題としてランチが売れた後の時間(13:30~16:00)

の売上げを伸ばすためにも早急に取り組んでいきます。

蒸しまんやランチの価格について改定をしましたが、食数が限られている為もう一度価格について考える必要があります。

担当職員がまんまん堂の営業に入ることもあった為職員同士の共有はある程度できたように思います。